

第 36 回腎癌研究会プログラム

日 時:平成 20 年 11 月 2 日(日) 10:30 ~ 14:45

会 場: 第二豊田ホール (名古屋市)

第 46 回日本癌治療学会総会 翌日

主 題:「腎癌ガイドラインの検証:診断に関するガイドラインは、実際の臨床に役立つか?」

開会挨拶

(10:30 ~ 10:35)

Session 1

CQ3:「透析患者における腎癌のスクリーニングは推奨されるか?」

[基調講演] (10:35 ~ 10:45)

演者: 笈 善行 (香川大学 泌尿器科)

[一般演題] (10:45 ~ 11:15)

座長: 笈 善行 (香川大学 泌尿器科)

1. 透析腎癌のスクリーニングは有効か 発見契機と予後の関係
近藤 恒徳 (東京女子医科大学 泌尿器科)
2. 透析腎癌を発見するための検査では何が有効か 各検査法の感度の比較
小内 友紀子 (東京女子医科大学 泌尿器科)
3. 透析腎癌の臨床病理学的検討 年 1 回の腹部単純 CT は有用か
金山 博臣 (徳島大学 泌尿器科)

Session 2

CQ5:「腎癌の病期診断に胸部 CT や骨シンチ, PET は推奨されるか?」

[基調講演] (11:15 ~ 11:25)

演者: 杉元 幹史 (香川大学 泌尿器科)

[一般演題] (11:25 ~ 11:35)

座長: 舩森 直哉 (札幌医科大学 泌尿器科)

4. 病期診断における胸部 CT の有用性の検討
仲村 和芳 (千葉大学 泌尿器科)

休憩

(11:35 ~ 11:50)

特別講演

(11:50 ~ 12:50)

「Sunitinib: the Reference Standard for the Treatment of
Metastatic Renal Cell Carcinoma and a Tool for the Urologist」

座長:内藤 誠二 (九州大学 泌尿器科)

演者: Peter F. Mulders (University Medical Centre St Radboud)

共催 ファイザー株式会社

Session 3

CQ:6「腎癌の予後予測因子として、赤沈、CRP、IAP は推奨されるか？」

〔基調講演〕 (12:50 ~ 13:00)

演者:篠原 信雄 (北海道大学 泌尿器科)

〔一般演題〕 (13:00 ~ 13:30)

座長:篠原 信雄 (北海道大学 泌尿器科)

5. 腎細胞癌の再発、予後予測因子としての CRP の重要性 血小板増多との比較

伊藤 敬一 (防衛医科大学校 泌尿器科)

6. 腎癌の予後因子としての赤沈、CRP の臨床的意義

岡島 英二郎 (奈良泌尿器腫瘍研究グループ (NUORG))

7. 腎細胞癌の予後因子としての血小板と CRP の関係

丸 晋太郎 (市立釧路総合病院)

〔一般演題〕 (13:30 ~ 14:10)

座長:藤井 靖久 (東京医科歯科大学 泌尿器科)

8. 腎癌治癒切除例の予後予測因子としての血清 CRP・IAP 値の検証

麦谷 荘一 (浜松医科大学 泌尿器科)

9. 再発腎癌における IAP 倍加時間の予後因子としての有用性の検討

荒木 千裕 (千葉大学 泌尿器科)

10. 腎癌診療における C 反応性蛋白(CRP)の意義

齋藤 一隆 (東京医科歯科大学 泌尿器科)

11. 免疫抑制酸性蛋白は術前の指標として有用か

川田 望 (日本大学 泌尿器科)

Lecture

(14:10 ~ 14:40)

「Poor Risk/Poor Prognosis Renal Cell Carcinoma
- Biology, Diagnosis, and Treatment」

座長:木村 剛 (日本医科大学 泌尿器科)

演者:Janice P. Dutcher (New York Medical College)

閉会挨拶

(14:40 ~ 14:45)